

財政学B		准教授 小松原 崇史	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナ ンスコースの専門選択科目, 経営・経済コースの専門選 択科目, 教職科目	科目ナンバリング	23222206 25320220

1. 授業のねらい・概要

本科目では、財政に関する問題についての経済学的な分析を行う。特に、消費税に焦点を当て、経済学的な視点から、消費税の経済への影響を検討する。本科目の履修にあたっては、「経済学基礎」及び「マイクロ経済学」を履修済みであることが望ましい。ただし、「マイクロ経済学」の知識は講義の前半で解説する予定であるため、「マイクロ経済学」を履修していない学生でも履修可とする。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行う。講義の理解を深めるため、問題演習を行うこともある。学生の理解度に応じて、以下の授業計画は、多少変更する可能性がある。

3. 授業計画

1. 市場と競争	9. 価格規制（価格の上限）
2. 需要（需要曲線）	10. 価格規制（価格の下限）
3. 需要（市場の需要と個人の需要）	11. 価格規制（問題演習）
4. 供給（供給曲線）	12. 課税の市場への影響
5. 供給（市場の供給と個人の供給）	13. 弾力性と税の帰着（講義）
6. 需要と供給（均衡）	14. 弾力性と税の帰着（問題演習）
7. 需要と供給（均衡の変化）	15. 後半のまとめと復習
8. 前半のまとめと復習	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習する。そのためには、毎週1, 2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

解答を試験終了後に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

消費税の経済学的な分析についての結果や意味を、理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社、2019年）を使用する。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とする。守れない学生に対しては、直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求める。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。